

面積表	階別式は、南北両側への開口部を考慮し、各階の面積を算出する。	試験場	
1階	42 x 22 = 924	試験場	
2階	35 x 22 = 770	試験場	
3階	42 x 22 = 924	試験場	
合計	42 x 22 x 3 = 2772	試験場	

あがね監督

要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(7)を具体的に記述又は図示する。

(1) 基準階(貸事務室A、貸事務室B及び共用部)について、次の①、②の観点から配慮したこと

①収益性(レントラブル比に関する記述は除く。)や可変性  
 貸事務室A、貸事務室B共に無柱空間を有することで、広く空間を利用できるので収益性が高く、自由な間仕切りので可変性も高い室とした。  
 ②快適性やテナント及び利用者の多様性  
 貸事務室A、貸事務室B共に、南側に窓を多く設けて採光をとり、利用者の快適性に配慮した。 99採光の記述が正しい

(2) 最上階(シェアオフィス、共用部及び屋上庭園)について、収益性や快適性、多様な働き方に対応可能な空間づくりの観点から配慮したこと

シェアオフィスのラウンジに屋上庭園を隣接して設け、シェアオフィスの利用者が休憩したり、利用者同士でのコミュニケーションをとりやすい場所とした。 7-2(2)(4)

(3) 採用した構造種別と、その構造種別を採用した理由(無柱空間とするに当たり工夫したこと及び耐震性や経済性等について配慮したことも含む。)

採用した構造種別 (○で囲む。)	木造 ・ 鉄骨造 ・ <b>RC造</b> ・ SRC造 ・ その他( )
採用した理由(工夫したこと等)：	7-3(4) 耐震性に配慮してRC造で建設することで、無柱空間を構成するためにPC梁を使用した上で、梁せいの他列も高く、PC梁を支える柱は800x1000mmの断面寸法とした。

(4) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した空調方式と、次の①、②の観点から配慮したこと

採用した空調方式	天井カセット型
①設備スペース(室内機、室外機、配管スペース等)の確保	室外機を置くための設備スペースを屋上の北側に配置し、各階の部屋に適切にASを設けた。
②貸事務室A及び貸事務室Bの快適性	天井カセット型を空調に採用することで、貸事務室A及び貸事務室Bの天井高を2.8m確保し、利用者の快適性に配慮した。

(5) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した排煙方式と、その排煙方式を採用した理由及び配慮したこと

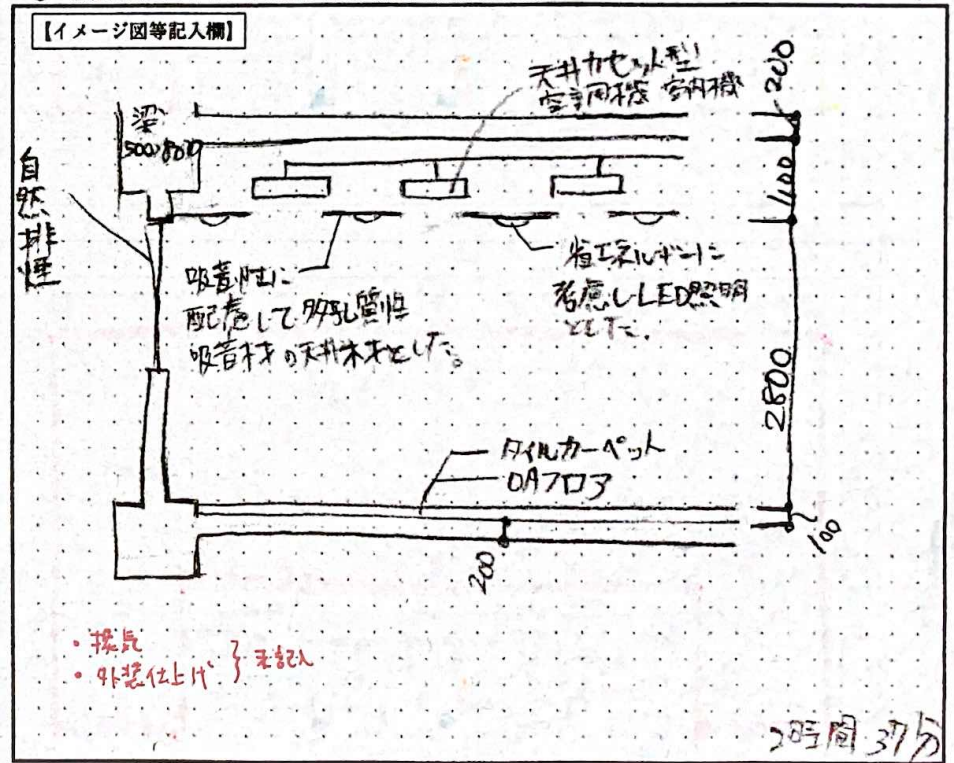
排煙方式 (○で囲む。)	自然排煙 ・ 機械排煙 ・ その他( )
採用した理由及び配慮したこと：	経済性に配慮して排煙方式は自然排煙とした。

(6) 省エネルギー及び二酸化炭素排出量削減について、次の①~③の観点から配慮したこと

①パッシブ技術 **空調負荷を削減し省エネルギーにする**  
 貸事務室Aの西側に垂直ルーバーを設け、西日に伴う室温の上昇を抑える計画とした。 図面に記載必須  
 ②アクティブ技術  
 屋上に太陽光パネルを設置することで、建物利用時の一部の電気エネルギーを発電によりまかなうこととした。  
 ③その他(創エネルギー技術、材料の選定等)  
 屋上庭園に設置するベンチに間伐材を使用することで、木材の廃棄をへらし、二酸化炭素排出量を削減した。

(7) 貸事務室A又は貸事務室Bのペリメーターゾーンの断面詳細が分かる図やイラスト等(縮尺1/50程度、フリーハンドでもよい。)及び次の①~③のポイント(全て【イメージ図等記入欄】に記入する。なお、(1)~(6)に記述した内容やその他工夫した点を合わせて記入してもよい。)

- ① 建築計画上のポイント(天井高、床高、天井ふところ等の寸法及び内装仕上げ、外装仕上げ等を含む。)
  - ② 構造計画上のポイント(柱、梁、床等の主要な構造部材(見えがかりも含む。))の断面寸法を含む。)
  - ③ 設備計画上のポイント(空調、換気、排煙、照明等を含む。)
- 2時間 20分



試験場	受験番号	氏名
		あかね 啓